



おどる浮沈子で魚つり

【個人出展】

鎌倉学園中学校・高等学校(神奈川県) 市江 寛

●どんな工作・実験なの？

ふつうの浮沈子は水中で上下に浮き沈みするだけです。この浮沈子は手をゆるめるとクルッ、クルッと回転します。そのようすは、まるで生きているようです。誰にでも簡単に工作できるように、材料、手順等も工夫してあるので、ぜひ作ってみてください。

●工作・実験のしかたとコツ

【用意するもの】

タレ容器（ポリエチレン製）、よーと（タレ容器の口にぴったりあうもの）、魚型タレ容器、画びょう、ゼムクリップ、つまみのないクリップ、炭酸用のペットボトル（500mL）

【工作のしかた】

- (1) タレ容器の口に近いところに側面にそうように2つ穴をあけ、容器の口によーとをねじ込み、浮沈子をつくる。
- (2) 魚型タレ容器の尾につまみのないクリップを取り付け、口にゼムクリップでフックをつくり、巻き付ける。中に適度に水を入れ、フタをしっかりしめ、つり上げ用の魚をつくる。水の底にギリギリ沈んで立つように中の水を調節する。

- (3) 水の入ったペットボトルに魚を沈め、浮沈子を入れたら、しっかりとキャップをしめて完成です。

【実験のしかた】

ペットボトルを強くにぎると、浮沈子がヒューッと沈み、力をぬくとクルッと回って浮び上がります。コツはにぎる力を少しずつ強くして、ゆっくりと浮沈子のフックを魚のフックに近づけます。真横に来たら、タイミングよく力をぬき、浮沈子を回転させて引っかけます。

●気をつけよう

画びょうでけがをしないように気をつけてください。

●もっとくわしく知るために

「理科教室 2002年2月号」 p.40 市江寛「おどる浮沈子」日本標準（2002）

https://drive.google.com/file/d/1BrKyeyuUB_7j9_7eoug5tGqzyRux53oS

